

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

奈良市立朱雀小学校 講師 原田龍ノ助

1. 単元名 自然災害から人々を守る

2. 単元の目標

・資料を通して、地域の人々や関係機関は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解することができる。
(知識・技能)

・過去に県内で発生した自然災害と、それにまつわる関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動とそのはたらきについて考え、表現することができるようにする。
(思考力・判断力・表現力)

力)
・自然災害への対応や備えなどについて意欲的に調べようとするとともに、自分に出来る減災や防災について考えようとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、教材を3つ取り上げる。1つ目は社会科と連携をして、副読本である奈良県のくらしより「3. 自然災害から人々を守る」である。奈良県で起こった自然災害の被害や発生時の関係機関の働きについて、奈良県がガス会社等各企業と協定を結んで、協力していることを学習できる。また、それらの被災された方々の経験から防災や減災を学び、自分たちはどのように準備をして、行動をすればよいのかを話し合い、考えることができる。2つ目は、朱雀地区防災マップを作成した朱雀地区自主防災の方々のお話である。ゲストティーチャーとして招聘し、防災に関する実際の取組みを聞いて、自分の地域の防災マップと危険箇所、避難所の場所などにも関心を持たせる。3つ目は、能登半島の被災した土地や水害にあった地域のVRを活用した災害発生時の様子を疑似体験することである。

自分事として災害を捉え防災意識を高める効果が期待ができる。(なお、被災地の映像を見るにあたり、児童の親戚家族、友人など近い方が被災されていないか確認する等の配慮は必ず行う。)

(2) 児童観

本学級の児童は、学校内で行われている避難訓練や授業、テレビやニュースから災害に関する情報を取り入れている様子が見られる。家庭で避難セットを準備していたり、水や食料などを備蓄したりしていると把握している児童はクラスの半数ほどいる。各家庭で万が一被災した時に備え、何らかの準備や家庭内で決めごと等の話をしていると思われる。また、夏休みの間に、阿倍野や神戸の防災センターへ家族で行ってきた児童がいた。しかし、災害に対する備え、長く続く被災後の生活や行動は、自分事として掴みきれている児童はまだまだ少なく、防災や減災についての知識や行動力は十分とは言えない。そのため、できるだけ具体的に災害の恐ろしさを伝え、知り、正しく恐れると共に、生き延びるため本当に必要な防災・減災の知識、意識と行動力が備わってほしい。また、自分や家

族の命の重みも感じ、更に防災・減災の意識が高まってほしい。

（３）指導観

本単元の指導に当たっては、まず、奈良県で起こった災害の被害について取り上げる。被災した際には、県（自治体）と関係機関の協定や協力、被災地の復興をするためにどのような方々が働いているのかを副読本で学習する。自助、共助、公助の違いを明確にすることで、「自分にできること」と「自分ではできないこと」を整理でき、自分は何をすべきか、何ができるのかが見えてくると考える。その際に、教師が教えるのではなく、児童自らが課題を見つけられる環境を作り、児童同士が共有して、対策を話し合う活動を大切にしたい。次に、自分の大切なものを守るために自分や家族、近所の方たちの姿を想像しながら、防災学習に取り組ませたい。その仕掛けとして、朱雀の防災をだれよりも考えている人たちから学ばせたい。そこで、朱雀地区防災マップやハザードマップの作成者のお話を聞かせる。最後に、災害に対して正しく恐れられるように VR などを使って、災害に対する具体的なイメージを持たせる。VR の良さである没入感を活かして、今までの災害に対するイメージと学習後の災害のイメージを違うものにしたい。

（４）ESD との関連

○本学習で働かせる ESD の視点

責任性…災害から、自分たちの命を守る手段を持っておりそれを実行する必要がある。
相互性…自分たちの家族だけで避難するのではなく、地域と協力して災害から身を守る。
有限性…今ある建物は、当たり前にあるものではない。災害が起こればどうなってしまうか分からない。

○本学習で育てたい ESD の資質・能力

- ・進んで参加する態度
地域の避難訓練や防災訓練に参加して、防災に対する意識を持つ。
- ・未来像を予測して計画を立てる力
 - ①様々な災害に備え、防災セットを揃える。
 - ②土地勘のない場所で、被災した際にも適切な行動がとれるようにハザードマップを見たりして危険を知り、どのように行動すればよいのか考える。
- ・つながりを尊重する態度
自分たちの家族だけではなく、近所に住んでる人々とも防災に対する意識を高め、協力をしていく。
- ・クリティカルシンキング（批判的思考）

朱雀地区はハザードマップを見ると安全なのに、なぜ細かい朱雀地区防災マップがあるのだろうと批判的思考を持つ。

○本学習で変容を促す ESD の価値観

- ・世代内の公正
 - ①防災や減災への意識を高めるためには、ある世代だけで考えるのではなく、様々な世代が協力し合って考えていく必要がある。
 - ②被災した際には、自分の家族だけではなく、地域の人々と助けあって避難することが大切である。

○達成が期待される SDGs

目標 11：住み続けられるまちづくりを（11. b）

目標 13：気候変動に具体的な対策を（13. 1）

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①資料を通して、地域の人々や関係機関は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。 ②資料を通して、奈良県内でどのような災害が起こったのかを知る。	①過去に県内で発生した自然災害と、それにまつわる関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動とそのはたらきについて考えることができる。	①自然災害への対応や備えなどについて意欲的に調べようとするとともに、自分ができる減災や防災や、家族でできる防災や減災に積極的に取り組もうとしている。 ②防災や減災に取り組む際には、自分たちだけではなく周りの人たちとも協力する必要があると知り、発信しようとしている。

5. 単元の指導計画（全16時間）

学習活動	○学習への支援	評価・備考
1 奈良県内で起こってきた災害について知る ・大和川大水害では浸水被害が深刻だったんだ ・紀伊半島大水害では、土砂崩れの恐ろしさが分かるね。	○奈良県の地図で王寺町の位置を確認して、どのあたりで起こっていたのかを知ったり、「なぜ、このような水害が起きてしまったのか」原因を知り、学びを深められるように働きかける。	ア② (知・技)
2 大和川大水害の際に、人々はどのように協力していたのか、また、県と関係機関はどのように協力し、人々の生活を守っているのかを知る ・地元の人以外も復興に向けて協力しているんだね ・ガスや電気なども止めて二次災害を防いでいるんだね	○各関係機関にも、様々な役割があり、密な情報交換、協力体制が敷かれていることを伝える。 ○警察や病院、自衛隊などはそれぞれがどのような役割を担っているのかを児童に気が付かせる。	ア① (知・技) イ① (思・判・表)
3 奈良県は災害に備えてどのような取り組みをしているのかを知る ・グラウンドを遊水地に変えることで川の氾濫の被害を抑えているんだね	○過去の被災の経験を活かして、防災や減災に取り組んでいることに着目させる。	
4 自分の地域の防災について知るために、自主防災の方々の話を聞く ・防災マップを作るにはいろんな人の協力があつたんだな ・水害ハザードマップでは安全なのになぜ防災マップがあるのだろう	○自分の地域でも防災や減災の取り組みがあり、協力し合っていることを気が付かせる。	イ① (思・判・表) ウ① (主体的)

5 自分の地域の防災マップに、通学路での危険箇所を見つけて印をつける ・普段は見ないところを見ないといろんな危険に気づけなかった ・意外と、危険なところは身近にあるんだな	○自分の考える危険は、本当に危険なのかをもう一度考えさせたり、想像で終わらせないようにする。	
6 自分や家族でできる防災や減災を考える（自助を重点的に考える） ・避難場所の集合場所を決める必要がある。 ・学校とか、仕事とか離れてるときはどうしたらいいんだろう。 ・逃げた先での生活のことも考えないといけないね。	○学校で話し合うことで、終わることなく、家庭に持ち帰って話をして、家族で備える大切さを伝える。また、自助をするためにはどのような準備、相談や心がけが必要か改めて考えさせる。	ウ② (主体的)

実践報告

【成果】

- ・自主防災の方々の講話を聞き、防災に対する意識が高まり、備える必要性を感じることができた。
- ・防災とは、一人で完結するものだけではなく、家族と協力しないといけないもの、地域と協力するもの、公的機関に頼るべきものがあることを知った。
- ・災害とは恐ろしいものであることを再認識できた。
- ・世代内の公正の大切さ（助けあうことの大切さ）に気が付くことができた。

【課題】

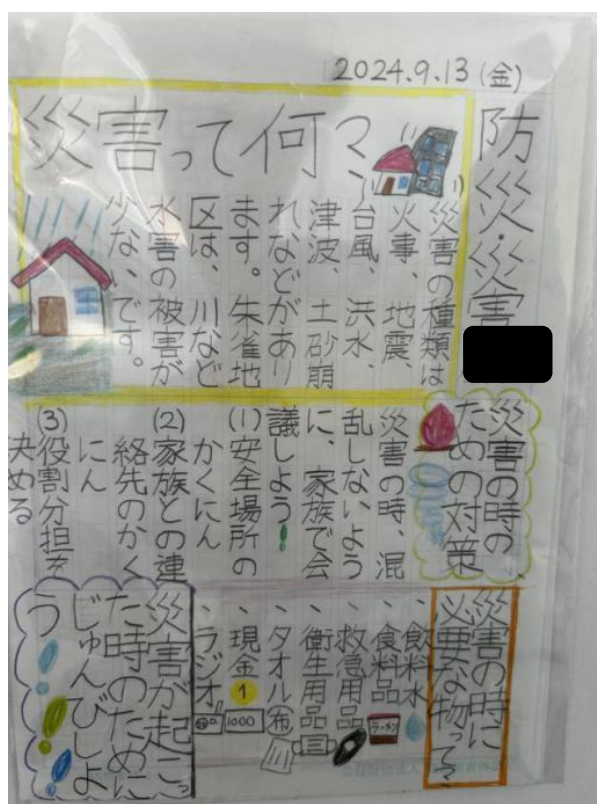
- ・防災知識の蓄積はできたが、価値観の変容が多くは見られなかった。
- ・防災活動を自分事ではなく他人事として捉えている児童がいる。

【考察】

防災に関しては、学習以前よりも意識が高まり、知識も格段に増えたと思う。夏休みの宿題で防災についてまとめてきた児童がいた。（以後Mさんとする）阿倍野防災センターについてまとめていた。Mさんは学習に対して積極的ではない方だが、自分の目で見たと、調べたことを丁寧にまとめていた。本人にこの内容にした理由を聞いたところ、「1学期に防災について勉強してて、もっといろんなことを知らない自分の命が守れないと思ったから」と言っていた。Aがここまでの意識を持って防災に取り組んでいること驚き、とてもうれしく思った。2学期には、地域の自主防災の方々に授業をしていただいたことで、自分の住んでいる地域の特徴や、潜んでいる危険を知ることができた。普段から、登下校の時や地域のイベントで顔を合わせている方々から防災について話を聞くことにより、「大人は命を守るためにいろんなことを考えているんだ」という意見もあった、一方で「そんなことして、意味あるのかな。南海トラフが来たら無理やろ」という意見も上がった。また、家庭に授業の話を持ち帰った児童の発言の中に、「私の親はあんまり防災について考えてなくてびっくりした」という意見もあり、児童の各家庭での意識の違いもあることが分かった。各家庭にも防災の意識を高めてもらいたいと考えていたので、自主防災の方々に、「家族会議」について話をしていただいた。また、県が出しているパンフレットも活用した。早速、家で家族会議を開いていた児童もいれば、学校の机の中にパンフレットを置いたままという児童もいた。聞く姿勢は良かったのだが、いざ、自分たちで考えて、行動をしていくとなると、途端に自分事ではなく他人事として捉えてしまう児

童が多くいた。その内訳とは、「時間がない」「話を聞いてもらえなかった」「めんどくさい」「何を話せばいいかわからない」といったものだった。配られたパンフレットは大人に向けた資料だったため、児童には少し難しかったか。そのため、家族会議をする気が失われてしまったのかもしれない。防災とは「起こるかもしれない災害」に備えるため、現実感が少なく、「防災意識」を維持することが難しいと考える。

防災教育には、4つのステップがあると言われている。1つ目は「災害のメカニズムを知ること」2つ目は「危機を感じること」3つ目は「防災の意識を高めること」4つ目は「災害後、未来の街づくりについて考えること」である。社会科や理科などで、どのようにして災害が引き起こされるのか知り、避難訓練などで危機意識を持たせる。防災の知識を付け、危機意識を持つことができれば防災について考える必要性を感じるだろう。また、自分の地域が被災したことを想定して、復興についてや、自分たちの生活を守るために考えることが大切である。復興は、並々ならぬ努力が必要になってくる。子どもたちに、「人と人が助けあい、繋がることの大切さ」を、この学習を通して気づいてほしいと強く思う。



(自主防災の方々の授業後のはがき新聞)



(Mさんの夏休み新聞)

現在の学年終了時に目指す姿

災害・防災・減災に対する知識をつけ、災害を正しく恐れ、家族と災害に備えて相談、準備をすることができる。



社会科「自然災害からくらしを守る」

様々な災害について学び、知識を身につける。そこから現代の防災を知り、自分たちにできる防災、地域で進める防災等、今ある暮らしを守る必要性に気が付かせる。また、災害は人間にとって脅威になることも気が付かせる。

算数科「グラフや表を使って考えよう」

ハザードマップや様々な災害に関するグラフを読めるようになることで危険を知ることができる。

ハザードマップって役に立つんだ

災害の経験を活かして、今後の防災を自分たちも考えていかないと。

国語科「もしもの時にそなえよう」

自然災害の情報を集め、危険から身を守るためにはどうすればよいのかを調べる。その際に、情報を自分で整理することにより、有益な情報を選ぶ力を育てる。また、防災は能動的に動くことが大切であると気が付かせる。

総合的な学習の時間「自然災害から人々を守る」

○主に養いたい ESD の資質・能力
・進んで参加する態度

地域の避難訓練や防災訓練に参加して、防災に対する意識を持つことが大切である。

・未来像を予測して計画を立てる力

災害に備えて、様々な準備をする力をつけることが必要である。

○主に育てたい ESD の価値観

・世代内の公正

防災や減災への意識を高めるためには、ある世代だけで考えるのではなく、様々な世代が協力し合って考えていく必要がある。

自分たちの命は自分たちで守らなければ。

理科「地面を流れる水の行方」

水が流れる性質を理解して、自分の住んでいる地域は水害による被害はどのようなものなのか、また、家の場所等は安全なのかを考える力を育てる。

ハザードマップの情報だけではなく、自分の目で確認することも大切なんだね。

訓練から何をするのかを知らないと本当に起こったときに混乱しそうだね。

校内の避難訓練

避難訓練をする際の心得や、訓練をする意味、大切さを再び確認させる。明日はわが身と思うことで、逃げる際にどのようなことに気を付けていけばよいのかなど、集中して取り組めるようにしたい。